

アントニオ・ルイス＝ピポのピアノ作品にみられるスペイン民謡の影響

大阪芸術大学短期大学部 通信教育部保育学科 特任講師 紺谷志野

本研究は、スペイン人作曲家、ピアニストのアントニオ・ルイス＝ピポ (Ruiz-Pipó, Antonio 1934 - 1997) の作品と生涯を概観し、特にピアノ作品にみられるスペイン民謡の影響について考察することを目的としている。本研究は、塚本学院教育研究補助費の支給を得て筆者が平成 24 年度、平成 25 年度に行った研究、令和 4 年度、令和 5 年度に本学演奏学科教授の熊本マリ氏と行った共同研究に継続するものである。2024 年はルイス＝ピポの生誕 90 年を迎える年でもあり、意義のある研究にしたいと考えている。

1934 年にスペインの南部アンダルシア地方のグラナダに生まれたルイス＝ピポは、スペイン市民戦争 (1936 - 1939) で父が亡くなったことなどから、8 歳でカタルーニャ地方のバルセロナに移住したⁱ。1940 年代のバルセロナは、市民戦争後に若い音楽家達がいち早く集結し「マヌエル・デ・ファリャ・サークル」ⁱⁱというグループを結成するなど、スペイン音楽の中心地となっていたため、ルイス＝ピポとその家族もより良い音楽教育環境を求めてバルセロナを選んだことと思われる。

バルセロナに移住したルイス＝ピポはエスコラニャ・デ・ラ・メルセⁱⁱⁱに入学し、グレゴリオ聖歌、和声学、室内楽などの様々な基礎を 8 年間にわたって学んだ。幼少期にこれらの基礎を良い環境で学べたことは、大変幸運であったとルイス＝ピポ自身が述べている。1948 年から 1951 年にかけては、フランク・マーシャル・アカデミーでラローチャ (Larrocha, Alicia de 1923 - 2009) にピアノを学んでいる^{iv}ことから、マーシャル、ラローチャからの音楽的影響が推察される。この点については、昨年度の共同研究をもとに考察を進めたい。1950 年にはコンサートピアニストとしてデビューし、1950 年から 1951 年にかけて最初の作品を作曲した。その後、フランス政府の支援を得て 1951 年にパリへ留学し、エコール・ノルマル音楽院に入学した。エコール・ノルマル音楽院ではコルトー (Cortot, Alfred Denis 1877 - 1962)、ナット (Nat, Yves 1890 - 1956) らに師事した。また、この頃にはブランカフォルト (Blancafort, Manuel 1897 - 1987) やバカリッセ (Bacarisse, Salvador 1898 - 1963) などからのアドバイスを受けている。

このように、10 代でピアニストとしてデビューし、20 代前半には当時の高名な音楽家達からの指導を受け、作曲家、ピアニストとして活躍したルイス＝ピポだが、現代においてはギター作品の作曲家としての方が広く知ら

れている。それは、ルイス＝ピポの友人であり、著名なギタリストであるイエペス (Yepes, Narciso García 1927 - 1997) が、彼の作品を演奏し広めたからである。

イエペスは 1952 年公開の映画『禁じられた遊び』の音楽で世界的に知られることとなったが、1947 年にスペインの名指揮者アルヘンタ (Argenta, Ataúlfo 1913 - 1958) に招かれスペイン国立管弦楽団の定演コンサートにおいてロドリゴ (Rodrigo, Joaquín 1901 - 1999) のアランプエス協奏曲を演奏し、その後ヨーロッパでの演奏活動の成功により、名の知られたギタリストであった。ルイス＝ピポとは 1951 年に知り合い、長年にわたり兄弟のような間柄を築いた。1958 年に作曲されたギターのための《歌と踊り 第 1 番》はイエペスによって演奏され、ルイス＝ピポの名を世界的に広めるきっかけとなった。

ルイス＝ピポは 1976 年に初来日し、スペイン作品のピアノ独奏会を行っている。1970 年代半ばから後半にかけて、スペイン王立マドリッド音楽院で学んでいた熊本氏によると、曲目までは定かではないが、当時の試験課題曲の現代曲の中にルイス＝ピポの作品があったことを記憶しているとのことであった。ルイス＝ピポは、1977 年から亡くなる 1997 年までの 20 年間、自身が学んだエコール・ノルマル音楽院で教鞭をとっており、熊本氏がスペインで学んでいた頃にはすでに作曲家、音楽教育者としてヨーロッパの音楽界での地位を確立していたことが推察される。

本研究を進めるにあたり、筆者、熊本氏が所属する日本スペインピアノ音楽学会 (JSSPM) の会長でありピアニストの上原由記音氏^vにも、ルイス＝ピポについてのアドバイスをいただいております、それらを生かした研究成果をまとめ、日本におけるスペイン音楽の研究に貢献したいと考えている。

ⁱ 『現代ギター』1976 年 7 月号 No.115 p.48。

ⁱⁱ ルイス＝ピポ自身も加入した。Antonio Ruiz-Pipó Boosey & Hawkes <https://www.boosey.com/> (2025 年 2 月 22 日検索)

ⁱⁱⁱ ルイス＝ピポによると、当時スペインのカタルーニャ地方には「エスコラニャ」という、子ども達を集め合唱を教えながら音楽一般の知識も同時にさずける宗教的機関があった。『現代ギター』1976 年 7 月号 No.115 p.48。

^{iv} Antonio Ruiz-Pipó Boosey & Hawkes <https://www.boosey.com/> (2025 年 2 月 22 日検索)

^v 上原由記音氏は武蔵野音楽大学卒業後、渡欧。フェヴリエ (Février, Jacques 1900 - 1979)、ルイス＝ピポ、ラローチャ、モンポウ夫人 (Mompou, Carmen Bravo de 1920 - 2007) らに師事した。1979 年パリ・エコール・ノルマル音楽院室内楽科を審査員一致の満点で修了。